

川口薬剤師会・済生会川口総合病院薬剤部情報交換会 報告書

日時:2023年11月14日 19:00~20:30

場所:済生会川口総合病院東館地下1階講堂

報告者:戸田市薬剤師会 保険薬局委員会 小澤 克司

【当院のトレーシングレポートの現状】 薬剤部 薬剤科 猪野達也 先生

・済生会川口総合病院の現状

地域外専門拠点病院 外来化学療法 18床 4015人 薬剤師2名で対応

化学療法担当薬剤師の業務

全日業務 薬剤の調整と鑑査(鑑査は事前の検査値の確認 注射せん発行などやることが多い)
鑑査担当が大変なのでサブに1名つく形

半日業務 翌日の準備や鑑査を行う(病棟業務などを兼務)

・TRの運用方法

保険薬局から薬剤部へ提出されたレポートのファイルを電子カルテへ貼り付け

医師が気づかないこともあるので電子カルテ上に付箋をつけてファイルがあることをお知らせしている

・TRの実績

直近3か月の間に全内容で134件、うち化学療法は43件

現状報告の内容が22件 そのうち提案があったものは約半数

・TRの内容

実際に処方に反映されたTRの内容

副作用の悪心のためのドンペリドン追加 痺れの状態悪化によりLOHP休薬

浮腫発現でフロセミド追加 抗ヒスタミン変更 アズノールうがい追加 処方日数調整 減量

処方に反映されなかったが医師が提案への反応を示した例 13件

ドンペリドンの薬効のため継続とコメントの記録

降圧薬追加の打診→血圧他院でフォロー中のため、処方通り継続とコメントの記録

ドンペリドン使用法への指導の打診→使用問題なし、現行通りとコメントの記録

・TRについての医師の反応

反映されなかった事例

増量や支持療法の追加、用法の変更、MINO長期連用のため中止の打診→継続投与理由などに関しては不明

薬剤科の対応の変更にて反応があったケース

TRでの提案:投与開始より体重減少あり→オーバードーズでは? 体重に合わせた投与量へ第一段階減量

→通常のカルテへの貼り付け1回目はそのままスルーされていた

付箋の内容の変更により医師の反応あり

付箋コメント:「トレーシングレポートがあります」→「保険薬局より体重減少の報告があります 減量指示をお願いします」

→処方の提案がある場合は、薬剤科にて強調する付箋へ変更していく方向

・TRの有用性を感じた事例

痺れ、急性のみ仕事できる程度、保湿全く行ってない様子→2回の保湿を指導実施しました(薬局薬剤師TR)

→院内での指導も行っているが、それだけでは不十分、保険薬局の継続したフォローが重要であると感じた

【院外処方における疑義照会の現状】 薬剤部 薬剤科 科長 島崎直美 先生

- ・HP に疑義照会用紙あり、HP 採用薬 2ヶ月に1回更新
- ・合意書も HP に記載されているので合意していない薬局は合意書を交わしてほしい
- ・院外処方 9000 回(FAX 率 28%)、 疑義照会率 4%程度、月を追う毎に減少傾向にある
- ・事前合意により、疑義照会を回避した事後報告 20%となっている
- ・医師へ確認せず薬剤部で回答した例は疑義照会のうち約半数(基本的に事前合意した内容のみ)
→合意内容を再確認していただければ疑義照会件数はさらに減らすことができる
- ・院外処方になって重複投与の発覚が 50 件位あった。
→院外処方にならなければ発覚しにくいと考えられるので院外になっての大きなメリット
- ・疑義照会用紙の変更について
薬剤師会のチェックボックス追加、合意のチェックボックス追加
FAX 番号、患者番号 8 桁がもれることが多い
処方箋添付してもらえると院内での処理がスムーズになるため添付を希望